

# 中心市街地における緑被地の分布と実態について—いわき市平中心市街地を対象として—

福島工業高等専門学校○学生会員 長瀬悠也  
正会員 齊藤充弘

## 1. はじめに

多極分散型の市街地構造を持ついわき市においても、国道6号をはじめ核と核とを結ぶ幹線道路沿いに商業や住宅の立地が進み、急速な空洞化が進んできている。このことより、中心市街地の空洞化対策、活性化策としては、郊外にはないその魅力を見出し、活かしていくことが必要である。その1つとして、長年にわたる歴史を通して蓄積された歴史・文化や緑被地を挙げることができる。既往研究をレビューすると、緑被地が人に与える様々な役割を持つことが明らかとなっており、緑被地を対象としてその実態にアプローチした研究<sup>1)</sup>としては、リモートセンシングをはじめマクロなデータを用いた調査・分析をみることができものの、例えば敷地単位や街区単位での緑被地を対象とするミクロなデータを用いた調査・分析には乏しいのが現状である。

本研究は、いわき市平中心市街地を対象として、敷地単位にみる緑被地の分布と実態を明らかにすることを目的とするものである。具体的には、現状の敷地単位での土地利用データに緑被地の分布データを重ね、その特徴を明らかにしていく。さらに土地利用変化を考慮し、両者の関係性を分析することにより、平中心市街地における緑被地の分布と実態を明確にしていく。

## 2. 研究対象と方法

### (1)研究対象 - 平中心市街地の特徴 -

本研究は、いわき駅を中心とする半径500mの範囲に該当する街区を平中心市街地として捉えて、そのうちいわき駅より南側の商業地域を調査・分析対象とする。平中心市街地の形成は、1602年、鳥居忠政公が築いた飯野平城（好間町下好間字大館）をその後、防衛上の問題等の理由により、現在の旧城跡に磐城平城を築いたことに始まる。城下町建設においては「町割り」が行われ、侍屋敷や寺町、足軽屋敷、職人町、商人町などができ、まちを成立させていた。ここでは、高台に武家町を配し、周辺の低地部に町人町を配した。この武家町においては正方形の大きな敷地割りとなっており、それに対して町人町においては街路に沿った短冊状の敷地割りとなっている。南側に城門があり、旧浜街道を中心に城下町が広がる空間構成となっていた。これが現在の中心市街地の原型となっており、常磐線や国道6号の開通などの環境変化を経ながらも、そのまちなみ、特に道路の線形は現在に至っている。近年は、いわき駅前再開発事業により、再開発ビルが建設されるなど駅前の街区は大きく変化している。

### (2)研究方法 - 緑被地の定義 -

一般に緑被地とは、樹林地、草地、畑、水田、果樹

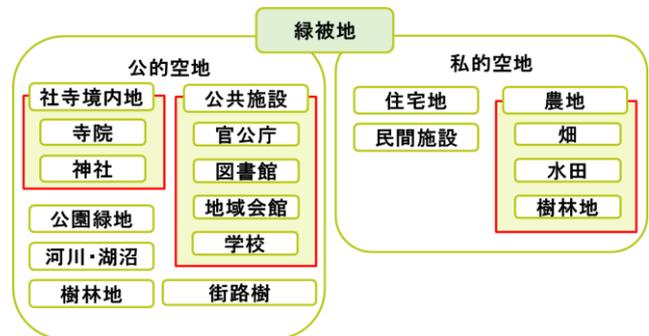


図1 緑被地の定義

園・苗畑などの緑で被われた土地の総称であるが、中心市街地内の緑被地については、空間分析の観点より明確な定義づけがなされていない。そこで、本研究では既往研究<sup>2), 3)</sup>のレビューを通して、その定義を図1のように分類していくものとする。対象地区の大部分は私的空地に該当するが、農地は存在しないため、対象となる敷地は住宅地と民間施設に分類することができる。また、公的空地については公共施設に加えて、近世城下町を基盤とする特徴を表すように寺院や神社が存在し、資源継承としての役割を果たしている。さらに、街区公園にみる公園緑地や沿道の街路樹もみることができる。これらの分類に基づいて対象とする敷地を捉え、その形態と分布に着目して、現地調査を通してデータを収集した。

## 3. 緑被地の実態について

### (1)緑被地の形態

現地調査を通して対象地区内の緑被地データを収集した結果、その形態より次の種類に分類することができた。

#### 1)樹木

樹高が5mを超える高木は、沿道の街路樹として、また公園緑地の沿道側や社寺境内地に分布している。その一方、樹高が3m以下の低木は、住宅地、民間施設、公共施設に庭木などとして分布している。

#### 2)生垣

敷地や庭の区画として植物を用いて設けられている形態であり、住宅地や民間施設、公共施設においてみることができる。

#### 3)植え込み

沿道や敷地内の庭などの空地において草木を高密度に植えたところであり、住宅地や社寺境内地においてみることができる。

#### 4)菜園

住宅地の庭などにある家庭菜園である。対象地区内でも、特に城下町時代からの短冊状の形状が残る敷地

キーワード：中心市街地、緑被地、土地利用、街区、空地

連絡先：福島工業高等専門学校建設環境工学科 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 TEL:0246-46-0830

の奥にみることができる。

#### 5) その他・複合型

上記分類が複合しているタイプもみることができる。具体的には、生垣と庭木、植え込みと庭木などのタイプであり、住宅地と民間施設、公共施設においてみることができる。

#### (2) 緑被地の分布

対象地区において、幅員 6m 以上の道路による区画を一つの街区として捉えると、合計 52 街区に区分することができた。このうち、まったく緑被地をみることができない街区は 1 つであり、その他 51 街区 (98%) に緑被地が分布していることが分かった。

この分布について、街区単位で定性的に分析した結果、図 2 にみるように「沿道分布 (一辺, 二辺, 三辺, 四辺)」、「中心に集中」、「角に集中」、「分散」、「その他」の 5 つのパターンに分類することができた。これに緑被地の形態分類を重ねてみると、「植え込み」についてはすべての分布パターンをみることができ、「生垣」については沿道が中心であり、「菜園」は分散型、「樹木」については中心や沿道への集中が大部分であるなど、緑被地の形態による違いをみることができる。

### 4. 街区単位にみる緑被地の分布と実態について

#### (1) 緑被地の形態と分布

対象地区内のうち、分散型の街区 (22) を取り上げ、その形態と分布についてみてみる。この街区 (22) は、南側が本町通りに面しており、沿道には小売店舗やビジネスホテルが建っている。また、夢屋横町や百澤通りなどの小路が南北を貫く形となっている。この街区 (22) 内の緑被地の形態についてみたものが、表 1 である。この街区内には 16 の緑被地があり、そのうち 1 つが住宅地であり、その他はすべて民間施設となっている。その形態としては、「庭木」が 2 つ (12.5%)、「植え込み」が 7 つ (43.75%)、「植え込み+庭木」が 7 つ (43.75%) と分類することができる。この分布形態は、「分散」に該当しており、沿道には「植え込み」や「植え込み+庭木」が、街区の内部や小路に沿って「庭木」が分布している。

一方、いわき駅前通りに面する街区 (20) をみてみると、街路樹のみ沿道分布 (二辺) する形となっている。この街区 (20) は、平面駐車場が街区面積のおよそ半分を占めており、沿道には小売店舗や雑居ビルが立ち並んでいる。同じ民間施設に分類される敷地であっても、街区 (22) における店舗併用住宅を中心に緑被地が分布しているパターンとは異なるパターンとなっている。

#### (2) 土地利用変化との関係

街区 (20) と街区 (22) の間にある街区 (21) においては、緑被地をみることができない。この街区においては、平面駐車場が 6 つあり、街区面積の大半を占めている。ここでは、かつては第 3 次産業事業所 (小売店舗など) であったものの、その後駐車場に変化した敷地を多くみることができる。また、小売店舗は、いわき駅前再開発事業により立地したものである。このように、土地利用の変化とともに緑被地の形態と分布が変化したパターンをみることができる。

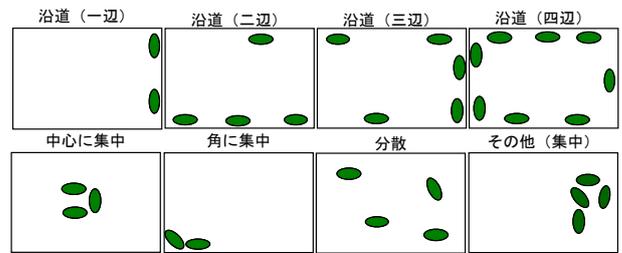


図 2 緑被地の分布パターン

緑被地の形態に着目すると、「生垣」や「菜園」は、住宅地にみることができる。特に、「菜園」については、隣接して見世蔵が立地しているパターンを複数みることができる。このような敷地は、かつての城下町時代の市街地成立基盤を継承する形となっており、間口が狭く奥行きが深い短冊状の敷地形状に分布している。このように、緑被

表 1 緑被地の形態 (街区 (22))

敷地	緑被地形態	面積(m <sup>2</sup> )
住宅地	植え込み	1.12
民間施設	植え込み	1.54
民間施設	植え込み	1.72
民間施設	植え込み	0.60
民間施設	植え込み	0.84
民間施設	植え込み	2.00
民間施設	植え込み	2.60
民間施設	庭木	2.54
民間施設	庭木	6.12
民間施設	植え込み+庭木	2.36
民間施設	植え込み+庭木	14.40
民間施設	植え込み+庭木	19.75
民間施設	植え込み+庭木	9.50
民間施設	植え込み+庭木	11.88
民間施設	植え込み+庭木	4.86
民間施設	植え込み+庭木	15.00

地の形態と分布においては、敷地の土地利用変化との関係を読み取ることができる。

### 5. おわりに

本研究の成果として、次の点をあげることができる。

第一に、平中心市街地内でみることのできる緑被地の形態を明らかにすることができた。生垣や植え込みなど 5 つの形態に分類することができる中で、その多くは、民間施設のある敷地、私的空地に存在している。

第二に、緑被地の分布形態について、定性的な分布パターンに分類することができた。その上で、形態分類との一定の関係性を見出すことができた。

第三に、土地利用変化との関係より、その形態と街区単位にみる分布パターンに特徴を見出すことができた。

今後は、形態と分布の関係や街区内の土地利用変化との関係について、緑被地との相補関係を導出すること、街区面積やその土地利用との関係について、さらなる調査・分析を進めていく必要がある。

#### 参考文献

- 1) 田畑貞寿他：緑被地解析よりみた地域環境の構成に関する研究，都市計画論文集，1973 年 8 号，pp.225-230
- 2) 田代順孝，杉本亮一：オープンスペース計画からみた緑被地の残存規模特性，都市計画論文集，1989 年 24 号，pp.115-120
- 3) 林尚貴，川合史朗，浦山益郎：宅地内の庭木や生垣によって形成される緑の景観の経済価値・専有空間のもつ公共性に対する地域共同管理の可能性に関する研究，都市計画論文集，2005 年 40 号，pp.841-846